

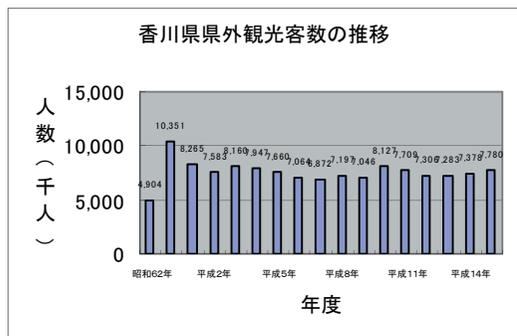
「香川（高松）地域の観光活性化の方策を考える」

～高商総合実践における取組み～

香川県立高松商業高等学校教諭 多田羅 元弘

1. はじめに

香川県を訪れる観光客数は瀬戸大橋が開通した昭和63年度がピークであった。その後平成10年度、明石海峡大橋の開通に伴い、800万人を超したものの近年は横バイである。また四国4県で香川を見た場合、道後温泉・坊ちゃん愛媛、阿波おどりの徳島、坂本竜馬の高知に比べるとやや香川のインパクトは欠けており、香川にとって手厳しいデータがあ



る。電通総研がまとめた都道府県別地域印象度調査だ。結果は、ブロック別で四国は最下位、都道府県別でも香川がどんじり。1位の北海道が35.8%の好印象を集めているのに対し、香川の支持はわずか0.2%。つまり「最も印象の薄い県」なのである。全国の都道府県の好印象度調査において47位に低迷しているのも仕方がない。ただ、近年の讃岐うどんブームや映画のロケにより急速に香川の存在感も



増してきているのも事実である。ただ、いくら存在感が増しても受け入れの観光地が旧来のままでは魅力に乏しい。

2. 三位一体改革と地方経済から香川県の地域振興、観光の活性化を考える

国の地方への補助金カット等により地方はこれまでの国への依存の体質から自立が求められる。しかし、これといった産業のない地方においては企業からの税収も期待できない。そこで、他県から人を呼び経済を活性化させる「観光」に期待が集まっている。

「観光」というのは、「光を観ること観せること」である。「あなたの街を輝かせましょう」というのが国土交通省のメッセージだが、「光を観せること」とはその土地の人々が暮らすその姿を見せることである。その土地の人々と風土と触れ合い、そこに魅力を感じれば「ここはいい土地だな」「また訪れたいな」と思いリピータを増やし、また評判が評判を呼んで人々を魅了し続けること間違いなしである。現在、香川においても「うどんツアー」が県外の人に受けているが、それは「讃岐うどん」が他県にはない魅力があるからであろう。ちょうど香川県では「観光立国」を目指して～2004年「にぎわい創出元年」～という位置付けから、この授業では、本校商業科3年次における「総合実践」の中で、専門パターンコースを選択している3年生76名の生徒たちと一緒に香川の持つ魅力を再認識するとともに香川を活性化させる方策やアイデアを探求することにした。

3. 授業の進め方

教室での講義による観光実務学習とフィールドワークの2本立てで実施した。観光実務学習については、私が大学以来、10数年来観光学の探求をライフワークとして研究をし続けており、その知識を

都道府県別の好印象度調査

上位県	下位県
1位 北海道	41位 愛媛県
2位 京都府	42位 高知県
3位 沖縄県	43位 鳥取県
4位 長野県	44位 佐賀県
5位 東京都	45位 茨城県
6位 神奈川県	46位 徳島県
7位 静岡県	47位 香川県

(資料:電通総研1998)

活かして講義を行った。

授業に際し、生徒たちには観光の意義と役割を特に意識して解説した。観光は観光旅行をする者に精神的、肉体的なりフレッシュ作用を及ぼす文化効果、厚生効果をもたらすが、観光客を受け入れる土地には所得効果、雇用効果、生産効果、財政効果等をもたらし、その地域の経済活性化に貢献するという役割を担っているということを特に生徒に伝えることに留意した。生徒の学習後のレポートには、私自身が感心するなかなか素晴らしい意見もありとても勉強になった。以下授業で取り組んだ項目は以下のとおりである。

(1) 講義内容

観光の意義と役割について
三位一体改革と地方経済について
「観光立国」を目指して
特別名勝について
城について
博物館とは？

(2) 調べ学習の内容

高松城の観光地としての評価
高松中央商店街について
自分の住んでいる街について

(3) フィールドワーク（現地学習）実施場所

高松中央商店街
栗林公園
サンポート高松
玉藻公園
ニューレオマワールド
うどん店
香川県歴史博物館
高松市歴史博物館・菊池寛記念館
屋島

フィールドワーク実施に関連して各々の箇所に関心したワークシートを配布し、それぞれの観光地の現状分析を行うとともに活性化の方策やにぎわい創出のアイデア等を考えさせレポートの提出を課した。

4. 評価の観点

(1) ファイルの作成

この総合実践ではファイルを作成して最終的にはポートフォリオ評価につなげたいということにある。ポートフォリオは学びの軌跡、成長の証しである。

授業を受けて知識や技術を学ぶことはできるが、それを振り返って見つめなおす。自分が考えたことがあれば、時折そのファイルを確認することでその時自分がどのように考えてどのように思っていたか、どんな気持ちで授業を受けていたか、学習の軌跡を見ることで授業に参加している意識が強くなるはずである。ポートフォリオによってファイリングする習慣とその楽しさが伝わってくれることを期待したい。

(2) 評価の材料および活用

先述したファイルには講義プリント、調べ学習プリント、フィールドワークプリントが収まっているが、それぞれのプリントには課題が設定してあり、それをレポートすることになっている。その評価の材料としては、「関心」「意欲」「思考」「知識」「理解」の5項目で評価した。

ただ、どう評価を活かすのか。この意識が教師にも生徒にも必要である。評価というものは何かをより良くしていくのにとっても有効であること、評価することにより、次はもっと良くできるという可能性につながるものであるということを生徒に伝える必要がある。評価を活用することによって生徒のモチベーションが上がりより良い成果が得られるであろう。香川を活性化させるという目標網を明確にすることがここでは大切である。

(3) 「かがわの高校生ビジネスアイデアコンテスト」への参加

前期に観光実務学習と現地フィールドワークによって香川の観光地の現状分析ができれば、後期からは前期の学習を土台にして平成17年度から実施された「かがわの高校生ビジネスアイデアコンテスト」地域活性化部門への参加を目的にパワーポイントを用いてのプレゼンテーション制作に入った。このコンテストは、地域社会の将来を担うことのできる創造性とチャレンジ精神に富んだ人材の育成を目指し、産業界と連携し「ビジネスアイデア」の募集を行い、未来の「起業家」を育てるとともに「知能社会」に対応した知的財産教育を推進することを目的としている。

校内では2人一組になりフィールドワークで訪れた観光地の中から一箇所自分が活性化アイデアを持った箇所を一つ選び活性化案を模索することとなった。当然このコンテストには県内の商業部会加盟校からも参加してくるので全グループの応募ができた

いので各クラス1チームの参加となった。

そこで各クラスで後期の11月には発表会を行い、最もよかった班が本校から代表として発表することとなった。またこの時、全員のグループのプレゼンテーションを行い、それぞれの発表について評価した。

評価項目は、声、姿勢、アイデア、構成、内容の5部門で各項目とも5点とした。



かがわの高校生ビジネスアイデアコンテスト

5. フィールドワークで訪れた観光地の現況および活性化案について(紹介)



玉藻公園



栗林公園



サンポート高松



ニューレオマワールド



屋島



香川県歴史博物館

一通り観光の定義を学習した後、実際の観光施設に出向き香川(高松)の観光地の現状分析を行い、改善点などを話し合った。訪問したのは栗林公園、玉藻公園、香川県歴史博物館、ニューレオマワールド、サンポート高松、屋島である。そして前期のフィールドワークに続いて後期は訪問した観光地の中から自分が研究したい観光地を1箇所選り現状分析を行った上で活性化させるためのアイデアを考えた。

このアイデアをたたき台にして各チームに別れてプレゼンテーションを行った。やはり、生徒の関心の高い施設はサンポート高松とニューレオマワールドが多くを占めた。生徒なりに考えたすばらしい活性化案がいくつもあったが紙面の都合上割愛したい。

6. おわりに

香川の観光地の活性化案を考えさせるにあたって、私は生徒達に自分たちの住んでいる香川の魅力を少しでも発見してもらったらそれで充分であると考えていた。何しろ高松市に住んでいながら栗林公園にすら行ったことのない子供たちの多さに正直愕然とした。玉藻公園に至っては殆ど生徒がこの学習で初めて訪れたのである。これでは県外の方々に栗林公園をPRしようとしても自分が知らないのだからPRできるはずはない。生徒の中には県外へ出る者も少なくはない。つまり一人一人の生徒が香川の観光大使の役割を担っているわけだ。そこで県を後にした生徒が、関西や関東地方で「栗林公園はいいよ」と言えば必ず訪れる人が現れるはずである。

幸い栗林公園は生徒たちにも意外と好評でなかなかの評価だった。また、この取組の成果として生徒一人一人が地域を見つめ直すきっかけとなり観光ビジネスの重要性を理解できた。サンポートやニューレオマも高校生たちに愛される施設となれば観光客増に間接的に貢献してくれるはずである。

私は旅行好きが高じて観光を探求するようになって20年近くなる。この間、日本各地をくまなく旅してきたわけであるが、冒頭でも触れたように大分県の湯布院町は何度となく訪れたい町として私のこころをつかんでいる。香川も全国の人に何度となく訪れてもらえるような観光地戦略を考えていかねばならない。たった100円のうどんを食べに往復1万円の橋代をかけて香川に来てもらえるのだから香川も捨てたものではないと思う。これからは観光の時代である。金沢の兼六園の入園者数からもわかるように高松自体が魅力的な街にならないと観光客アップは期待できない。街の魅力、施設の魅力、食の魅力を高めていかなければいけないだろう。

県民全体で観光に対する意識を高く持ち香川の良さを発信していかなければ香川は全国から取り残されてしまう。